



専門・認定トピックス Vol. 89

2026年1月27日

脳卒中の既往により麻痺側関節に拘縮がある場合には

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

脳卒中の既往により自分で動くことが難しく、麻痺側に拘縮がある患者さんの場合は、拘縮した麻痺側関節をゆっくりと動く範囲で動かすことが大切です。動く範囲以上に無理に動かすことで痛みの発生や、脱臼の可能性があり、動く範囲での他動的関節可動域訓練が必要になります。

車椅子乗車時に姿勢が崩れると苦痛が生じることで、筋緊張は増大するため、車椅子乗車の姿勢にも注意が必要となります。ベット上や車椅子乗車時に麻痺側の筋緊張が強い場合は、クッションを身体に密着するように使用すると筋緊張の軽減となります。

脳卒中により麻痺側の拘縮がある患者さんの対応に困っているときは、是非ご相談ください。

自傷や薬物過量摂取された方への対応

小児看護専門看護師

数十年前と比較し成人の自殺による死者は減少してきている一方、2020年以降小児の自殺死亡者は増加し、思春期の死亡原因の第1位となっています。また自殺企図とは異なりますが、小児の自傷ケースも急激に増加しています。自傷は、死にたくて行っているのではなく「死にたいほど辛い」ことからの逃避とされています。小児・成人問わず、自傷した方への対応時は『TALKの原則』を参考にしてください。

Tell ; (私はあなたのことを)心配していることをしっかりと伝える

Ask ; 自殺、希死念慮の有無を率直に尋ねる (理由を尋ねることは不要)

Listen ; 語ってくれる絶望的な辛い気持ちについて傾聴する

Keep safe ; 周囲の危険なものを遠ざけて安全を確保する

専門看護師の役割は実践・教育・相談・調整・倫理調整・研究です。

認定看護師の役割は実践・指導・相談です。

このトピックスは、最新情報や皆様へのお知らせを発信する院内便りです。